

地 域 と 医 療 で 咲 く コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン

あまが咲

2018

4月

No.47



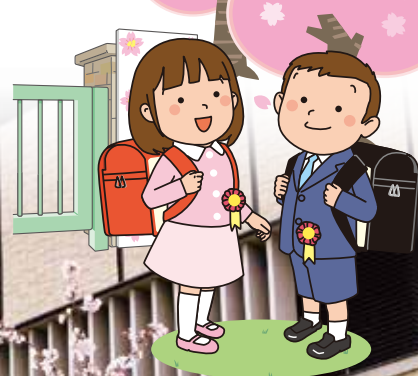
兵庫県立尼崎総合医療センター

Amagasaki General Medical Center (AGMC)

だより

[巻 頭]

新病院長 就任のごあいさつ



〔院内専門センターのご案内〕 地域医療連携センター

「地域医療連携センターは、関係機関と密接な連携を行い、
住み慣れた地域で暮らす患者さんを支えます。」

～お困りのことがありましたらお気軽にご相談ください～

〔AGMC委員会・部会めぐり〕 薬事委員会 ●セミナーのご案内 ●ぶらり～っと病院探訪

新 病 院 長 就 任 の ご あ い さ つ

この度、本年4月1日、
「兵庫県立尼崎総合医療センター
(AGMC)」病院長に
着任いたしました平家俊男です。
よろしくお願い申し上げます。



兵庫県立尼崎総合医療センター 病院長 平家 俊男

1 はじめに

AGMCは、藤原久義前院長のもと、兵庫県立尼崎病院と県立塚口病院との統合新病院としてスタートを切りました。スタートからすでに2年10カ月が経過し、着実にAGMCとしての多くの歩みを積み重ねてきました。この歩みは、断らない医療、納得・安全・チーム医療をモットーに、日々活躍している職員一同、緊密な連携を頂いている多くの医療機関、さらにAGMCを信頼して受診して頂いている患者さんにより支えられてきた歩みです。あらためて、厚く御礼申し上げます。

2 藤原前院長の路線を継承し、 深めていきます

藤原前院長は、AGMCの歩みを、「満員の乗客を乗せて、滑走路を助走・機首を揚げて上昇して水平飛行に移り、青空の中でスピードをぐんぐん上げる大型の新型ジャンボ機」に例えられました。これからは、満員の乗客が乗ったジャンボ機の飛行を確実なものにするためには、機材の不具合はないのか、乱気流に対して備えは十分にできているか、乗客への必要なサービスが行えているか、急病発症の乗客にどのように対処するかなど、絶えず注意を払って課題に取り組む必要があります。現在のAGMCはまだまだ発展途上にあります。そのため、私達は（機長とともにクルー全員）、社会のニーズを先取りし、社会のニーズに合わせて自ら積極的に変化（進化）していく必要があります。病院全体の調和を保ちつつ、かつ全員が当事

者として学習、行動して、藤原前院長の新年（平成30年）のご挨拶にある「目指すこと」3項目①量から質へ、②病院完結型から本格的な地域完結型医療へ、③医療のみならず、マネジメント・サービスでもトップの病院！を継続し、深めて行きます。

3 さらに高みを目指して、併せて、 足元も固めて

より重症患者を対象とすること、高度専門医療を拡充させていくこと、臨床研究・先端医療を充実させていくこと、教育・研修・自己研鑽に励むこと、により、各診療科・各部門の「全国に誇れる医療」をさらに拡充させていきます。

病院完結型医療から阪神南・北地域完結型医療&介護へという国の医療計画の中で、本院の役割は、地域・介護全体と連携・協調して、高度急性期医療、高度専門医療、政策・先端医療の部分を担当することです。そのため、PFM(patient flow management) AGMCをさらに充実させ、外来・入院・退院・転院までの一貫したサービスを拡充させていきます。

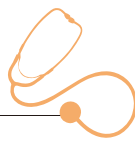
AGMCが誕生して2年10カ月。やっとAGMCは乳児期・幼児期を過ぎた段階にあるともいえます。これから学童期、青年期に突入し、ますます組織としての充実度を高めていく（マネジメント強化、サービス向上）時期です。私達一同は、自主性、柔軟性を備え、職員一同、地域・社会と手を携えあって、自ら学び・変化（進化）し、一層、工夫・改善してまいります。

地域、社会の皆様には、暖かいご支援とともに、叱咤、激励をよろしくお願い申し上げます。

平成30年4月1日

兵庫県立尼崎総合医療センター 病院長 平家 俊男

地域医療連携センター



院内専門 センターの ご案内

複数の診療科・部門を一つに
まとめ、診療機能を統合させた
当院の〈センター〉を
ご紹介します。

地域医療連携センターは、
関係機関と密接な連携を行い、
住み慣れた地域で暮らす患者さんを支えます。
～お困りのことがありましたらお気軽にご相談ください～

地域医療連携センターの特徴

当院は、高度急性期・高度専門・先進医療を担っています。

その機能を果たし続けるために、また、当院での治療をよりスムーズに受けていただき社会復帰していただくために、入院・退院調整のみならず、それに伴うさまざまな診療支援、相談、各種手続きのお手伝いをさせていただいています。また、予定入院の患者さんに対してPFM(Patient Flow Manegement)を取り入れ、入院する前から、退院後の状況・生活を見据えてさまざまな援助や準備のお手伝いをさせていただいています。今後も、行政や地域関係機関と密接な連携をとって患者さんを支えていきたいと考えています。



地域医療連携センター長
地域医療連携部長
脳神経外科 科長

山田 圭介



副院長(医療連携・
医療情報担当)
消化器内科 部長

齋田 宏



医事課 課長
地域医療連携
担当課長

村尾 昇

組織構成

医師、看護師
社会福祉士(MSW)
精神保健福祉士(PSW)
事務職員、医事課職員

業務内容

予約業務(前方支援)・退院支援・調整業務(後方支援)・地域医療機関への医療情報提供(側方支援患者)等を行っています。ICTを用いた医療連携システム(h-Anshinむこねっ)の整備と利用促進。また、隔月で一般向け市民すこやかセミナーを開催し、医療関係者、地域医療機関とのあいだでは地域医療懇話会や連携病院会議などを開催しています。



地域連携センター

後列左から: 肥塚真由美(地域医療連携センター 主査MSW)
河原長子(看護部 看護師長(入院調整担当))
増子由美(看護部 看護師長補佐 兼 地域医療連携センター 退院調整看護師)
前列左から: 津村かおり(地域医療連携センター 地域医療連携課長 兼 看護部 看護師長)
奥 由香(看護部 看護次長(地域医療連携担当))



診療受付(前方支援)



退院調整・相談支援(小児担当)



退院調整・相談支援(成人担当)



PFM—AGMC担当

患者さんや地域医療機関へのメッセージ

お困りのことがありましたら
気軽にご相談ください。





薬事委員長／眼科部長
宮崎 千歌

《薬事委員会の紹介・特徴》

- 採用医薬品の最適化
 - 医薬品情報収集体制の充実
 - 後発医薬品導入の積極的な検討
- これらを推進し、より安全で適切な薬物療法の実施や病院経営への貢献、患者さんの医療費削減に努めています。

《構成メンバー》計20名

- 委員長1名(眼科部長)
- 副委員長1名(薬剤部長)
- 診療部10名(消化器外科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、血液内科、消化器内科、小児科、産婦人科、ER・総合内科)
- 看護部2名
- 薬剤部1名
- 経営企画課1名
- 医事課1名
- 経理課1名
- 事務局(薬剤師)2名

■ 活動内容・取り組み・目標・開催状況など

薬剤部が事務局として取りまとめ、医薬品の採用および中止の審議・決定等を行っています。平成29年度は、より公平性および透明性を担保するため、採用に関する細則を設けました。医薬品の採用は有効性・安全性・経済性をこのルールに基づいて総合的に勘案し、中止についても経費の無駄になる不良在庫とならないように定期的に使用状況を調査し、検討しています。後発医薬品導入も後発使用割合をみながら継続して推進しており、平成30年度診療報酬改訂にも対応できる状況を維持しています。



薬事委員会風景



適切な運営および安全な医療提供を行うために、多職種で運営されている院内委員会・部会です。

薬事委員会

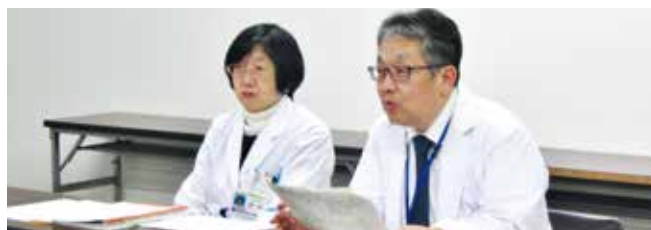
**くすりのゲートキーパー
として力を発揮します！**



薬事委員会メンバー

■ 患者さんや地域医療機関へのメッセージ

当院では、新生児から高齢者まで幅広い年齢層の様々な疾患に迅速に対応できるよう、非常に多種類の薬剤を取り扱っています。これからも、医薬品の採用を通じ、「安全・安心・適切な薬物療法」に貢献できるように、取り組んでまいります！



薬事委員会風景

セミナーのご案内



第16回 生活習慣病セミナー

多くの方の
ご参加を!

テーマ 『認知症とは』～認知症との付き合い方～

【講 師】県立尼崎総合医療センター

●神経内科 医師 影山恭史 ●認知症認定看護師 金澤直美

【日 時】平成30年5月17日(木曜日) 午後2時～4時

【場 所】県立尼崎総合医療センター 講堂(1階) 参加費:無料(予約不要)

★お問い合わせ: 外来Bブロック(糖尿病・内分泌内科) 看護師 ☎ 06-6480-7000(代表)

ぶらり～っと 病院探訪

手術室を効率良く運用していく
ための様々な工夫と努力

「手術部門」

手術と聞くと怖いイメージを持っている方も多いかと思います。今回は、その手術を毎日行っている手術部門を訪れてみました。尼崎総合医療センターには、3階手術部門に18室、1階救急救命センターと5階小児集中治療室に各1室の計20室の手術室があります。3階手術部門に入ると、2面の大きなディスプレイがあり18室の手術室の映像が表示されており各部屋の状況が把握できるようになっていました。また、当日の全ての手術スケジュールが大きなディスプレイに表示されているので手術時間や現在行われている手術、予定されている手術が一目でわかります。18室の手術室を含め手術部門を見学させていただきました。各手術室内は広く、明るく清潔感がありました。手術室以外にもサテライト薬局や洗浄室、物品保管室、医療機器保管室などがあり、手術部門全体の広さに驚き、様々な専門職種が関わっていることがよくわかりました。

手術件数をお聞きしたところ、なんと1日平均50件、月に約1100件も行われているそうです。予定された手術だけでなく、臨時・緊急手術の依頼もあるなか、手術室を効率良く運用していくためには様々な工夫や努力をされているのだらうなと思いました。

多種多様な業種の医療従事者が一つのチームとして、協力することにより患者さんの手術が安心・安全に行われていると感じました。



編集後記

ようやく寒かった冬が終わり、春がやってきました! 例年と比べても今年の冬は本当に寒かったですね。この原稿を書いている今は梅が綺麗に咲いていますが、この『あまが咲だより』をご覧いただく頃には桜が満開(すでに散っている?)かもしれません。花粉の季節で憂鬱な方もいらっしゃると思いますが、お花見や小旅行などで待ち焦がれた春を大いに満喫したいものですね。(N.I.)



兵庫県立尼崎総合医療センター

Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center (Hyogo AGMC)

〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町二丁目17番77号 TEL 06-6480-7000(病院代表) FAX 06-6480-7001

URL: <http://agmc.hyogo.jp/>

兵庫県立尼崎総合医療センター

検索